

インフォメーション

問い合わせ・申込み：仙台市市民活動サポートセンター
TEL 022-212-3010 / FAX 022-268-4042 Mail sendai@sapo-sen.jp

☆ 初めての市民活動を応援します「はじめての助成金申請」「はじめての協働」

日時：2月23日(土)

「はじめての助成金申請」10:00～11:00

「はじめての協働」11:10～12:10

内容：「はじめての助成金申請」では、市民活動を立ち上げ予定の方、助成金の申請を考えている方を対象に、活動資金についての基礎から、知っておきたい助成金の特性、申請書を書くコツを学ぶ講座を実施します。「はじめての協働」では、協働について知識を得たい方、仙台市協働まちづくり助成制度の応募申請を検討中の方を対象に、協働の基礎知識、協働をすすめるコツなどを学ぶ講座を実施します。どちらか一方だけでも、両方でも受講可能です。

会場：仙台市市民活動サポートセンター 研修室5

定員：各15名(先着順)

対象：これから活動を始めようと考えている方
資金調達の必要性が高い団体
助成金の獲得に苦労している団体
協働について知りたい方
活動の手法に悩んでいる団体など

参加費：無料

申込み・問い合わせ：メールでお申込の方は、件名を「はじめて講座」として、氏名・電話番号・質問事項をお知らせください。



サポセンスタッフから

マチノワひろば
図書コーナーに新着図書が届きました!

NPOの基礎知識やNPO法人立ち上げに役立つ本、まちづくりのヒントになるものや人権について考えさせられる本まで、様々な新着図書を取り揃えました。図書コーナーには閉架図書のリストもあります。なにか書籍をお探しの場合はスタッフまでお気軽にお声がけください。1度に借りられる図書は2冊まで。貸出期間は2週間です。図書貸出カードをまだお持ちでない方は、身分証明書のご提示でその場で発行できます。ぜひサポセン図書コーナーをご利用ください。



つながる つなげる サポセン

仙台市市民活動サポートセンターとは

様々な分野の市民活動、ボランティア活動の支援施設です。「自分たちのまちをもっと良くしたい」。そんな市民の自発的な活動を応援します。

ご相談ください

ボランティア活動をしたい/団体を立ち上げたい/組織運営の悩みを解決したい/他の団体や他のセクターと連携したい/自分のスキルを地域や社会に役立てたい...

今月の休館日 2月13日(水)、27日(水)

開館時間 月曜日～土曜日 9:00-22:00

日曜日・祝日 9:00-18:00

休館日 毎月第2・第4水曜日(祝日の場合は翌日木曜日) 年末年始

〒980-0811 仙台市青葉区一番町四丁目1-3
TEL 022-212-3010 FAX 022-268-4042
地下鉄南北線「広瀬通駅」西5番出口すぐ/地下鉄東西線「青葉通一番町駅」北1番出口から徒歩6分
[HP]https://www.sapo-sen.jp [Blog]http://blog.canpan.info/fukkou [Twitter]@sensapo

仙台市市民活動サポートセンターは、特定非営利活動法人せんだい・みやぎNPOセンターが仙台市の指定管理者として、管理運営を行っています。[指定管理期間2015年4月1日～2020年3月31日]

市民ライターが、仙台の市民活動団体やワクワクビトを取材しています!

▶市民ライター
http://blog.canpan.info/fukkou/category_23/1

▶「ぱれっと」バックナンバーはホームページからダウンロードできます。

▶ぱれっとに関するご意見をお寄せください。

[ぱれっと読者アンケート]

サポセンホームページからアクセスいただくか、携帯電話等で2次元バーコードを読み取ってご利用ください。



発行 仙台市市民活動サポートセンター
発行日 2019年2月1日
編集 特定非営利活動法人せんだいみやぎNPOセンター
デザイン PEACE Inc.
編集人 太田貴 菅野祥子 松村翔子 鎌田みずほ 水原のぞみ
発行部数 3000部
配布場所 市内公共施設や行政窓口、市内一部店舗、市内外の支援施設

ぱれっと 2

サポセンは2019年6月に開館20周年を迎えます!

祝



仙台市市民活動サポートセンター通信 ぱれっと 2019 No.234

「ぱれっと」には、仙台市市民活動サポートセンター(サポセン)にいろいろな人が集まり、それぞれの色(個性)が発揮され、新しい出会いや活動が生まれていく。そんな願いがこめられています。

今月の
ワクワク
ビト

NU Edition Products 株式会社
代表取締役
さとう なつみ
佐藤 夏美さん (36)

自分ごとが 地元を支える力へ

「仕事と子育ての両立を望むママを応援したい」と意気込む佐藤夏美さんは、1歳の娘をもつママ。福島で土木会社、仙台では総合広告代理店を営んでいます。総合広告代理店の社内には託児スペースを設けています。子どもを預けたい社員の出勤に合わせ、必要に応じてシッターを雇い入れています。子どもと一緒に安心して働くことができる環境を提供することで、子育て中のママの雇用も積極的に行っています。託児スペース設置のきっかけは土木会社でのこと。子どもが保育所で体調を崩し心配で仕事が手につかない社員の姿を間近に見たことでした。当時は独身の佐藤さんでしたが、子どもを持つ親の大変さを思い、「会社に子どもを連れておいで」と声を掛けました。仙台での会社立ち上げ時には、佐藤さん自身もママとなり、社員が子どもの側で仕事ができる環境づくりに努めました。「ママ達への支援は、その家族の幸せに繋がり、働きやすい環境の提供によって社会で活躍するママが増える」。働く人が地域に根付き、継続的に地元を支える会社を目指していきます。

取材・文 市民ライター 安藤真代

NU Edition Products 株式会社

住所 仙台市若林区六丁の目北町7-12 TEL 022-353-9422

HP https://www.nu-edition.com Mail natsumi-s@nu-edition.com

業務の中心は地元の情報誌やチラシのポスティングサービスです。webサイトでは地元企業の情報提供や、新しいビジネスモデルを立ち上げた企業の応援サイトも運営しています。2017年8月、「型にとらわれず、新しいかたちを常に創造し続ける」という思いで設立。現在働く70名のうち60名が女性で、その半数は子育て中です。

特集

遊びを通じて子どもたちの

「生きる力」を身につける

遊びを通じて子どもたちの「生きる力」を身につける

子どもたちは、「遊び」を通して人との関係の作り方や体の動かし方を学びます。創意工夫する体験を通じて、自分の心や考えを表現する機会を得ますが、今、子どもたちの遊ぶ空間の制限や遊ぶ時間の減少が課題となっています。それは、仲間とコミュニケーションをとる機会の喪失にも繋がっています。仙台市の8つの児童館と放課後児童クラブが、宮城県登米市の住民とパートナーシップをとり、子どもたちの「生きる力」を育もうと活動しています。

児童館と放課後児童クラブ
(運営:NPO法人 ワークスコープ)

子どもたちを育む環境を改善したい

鱒淵地域を元気にしたい

鱒淵地域住民自治推進協議会

仙台市東宮城野
マイスクール児童館
館長
せとりおん
瀬戸理音さん



協議会 会長
おの であよしみち
小野寺好道さん

協議会 事務局
NPO法人
ワークスコープ
登米地域福祉事業所
副所長
たけもりこうた
竹森幸太さん

- 東宮城野マイスクール児童館 ● 連坊小路マイスクール児童館 ● 鶴ヶ谷東マイスクール児童館
- 荒町児童館 ● 大野田児童館 ● 国見児童館 ● 東長町児童館 ● 金剛沢児童館
- 放課後児童クラブ「れいんぼうはうす」

子どもたちの記憶に残る体験を

約80%が山林を占める中山間地域、登米市鱒淵地区に子どもたちの声が響きます。NPO法人ワークスコープ(以下、ワークスコープ)が仙台市の指定管理を受け運営する児童館の子どもたちです。夏から秋にかけて、小学3年生と4年生約50人が大型バスに乗り、自然体験ツアーにやってきました。子どもたちを迎えるのは、鱒淵地域住民自治推進協議会(以下、協議会)のメンバー。大工仕事や山歩き、野菜づくりの名人など多様な住民集団です。協議会会長の小野寺好道さんは「鱒淵のそのままの自然を味わってもらえるような体験を心がけています」と、地元の豊富な資源に胸を張ります。

大木や虫に触りながらの自然観察、ノミと金槌を使い、竹の節取りからする流しそうめん、暗闇を歩いて見に行くゲンジボタル。「美味しかった!」、「怖かった!」、「きれいだった!」と、味わったすべての感覚が宝物です。全てが初めての体験で、上手い下手もなく皆平等。普段はチャレンジに躊躇する子どもも夢中で活動します。東宮城野マイスクール児童館館長の瀬戸理音さんは、「行きと帰りで子どもたちの表情がまったく違う。シンプルな感動が大切だと気付かされた」と話します。

水は蛇口からではなく山から流れてくることを、知識だけではなく体

験を通じて学ぶ機会が、子どもたちの「当たり前」を問い直す想像力を育んでいます。

お互いの課題が、お互いを活性化させた

鱒淵地域を含む登米市は、人口減少などにより、明治から合併を繰り返してきました。高度経済成長期までは林業が盛んでしたが、少子高齢化などにより担い手が減少。整備が不十分な山林が増えています。

ワークスコープは、福祉関連事業、子育て支援事業などを行う団体です。2014年10月から鱒淵地区を拠点に、里山再生のための自伐型林業の仕事おこしに取り組んできました。登米地域福祉事業所の竹森幸太さんは「仕事おこしのためにはまず地域おこしから」と、住民との協働による事業にも力を入れてきました。

ツアー企画のきっかけは2016年。ワークスコープが開いた鱒淵地区の調査報告会でした。近い未来、過疎による地域機能が低下するといった課題が明らかになり、住民と「鱒淵をどうするか」を議論する場となりました。一方、スタッフとしてその場に居合わせた瀬戸さんは、遊びを通じて情緒やコミュニケーション、社会的規範を学ぶ機会を失いつつある、都市部の子どもたちの現状を吐露し、「子どもたちが生き



「NPO どんどこプロジェクト」を活用しています
地域の課題に主体的に取り組んできた NPO と、子どもたちの拠点として活動してきた児童館との連携によって、子どもたちと地域が共に気づき、学び合う環境を創出する助成プログラムです。
問い合わせ 特定非営利活動法人日本 NPO センター
〒100-0004 東京都千代田区大手町 2-2-1 新大手町ビル 245 TEL 03-3510-0855 FAX 03-3510-0856

- 仙台市東宮城野マイスクール児童館 〒983-0042 仙台市宮城野区東宮城野 5-1 TEL/FAX 022-239-5484
- 鱒淵地域住民自治推進協議会事務局 NPO 法人ワークスコープ登米地域福祉事業所 〒987-0901 登米市東町米川小山下 14 TEL 0220-23-7581 FAX 0220-23-7582

る力を身につけるために必要なことが、この大自然の中にはある」と訴えました。「お互いの課題解決のためにできることがある」と両者が確信した瞬間でした。

報告会を受け、協議会は、2017年6月に鱒淵の住民による地域課題の解決を目的に立ち上がりました。7月には児童館との協働による自然体験ツアーが実現。2018年9月までに計5回行われ、約250人の子どもたちが鱒淵を訪れました。

児童館の職員と協議会のメンバーは、何度も会議や現地の下見を重ね、実施2年目には何でも言い合える関係になりました。小野寺さんは「子どもたちが鱒淵の自然に感動する姿を見て、地元を見直しました。地域全体の士気が高まった」と振り返ります。

多様な人たちとの共生を目指して

「親や先生以外の人たちに褒められたり叱られたりする体験は、子どもたち自身で新しい自分を発見する機会になります」と、瀬戸さん。不登校だった子どもが自信をつけ、学校に通うようになったこともありました。小野寺さんは「子どもたちの変化にやりがいを感じる。次は保護者と遊びに来てほしい」と、今後の繋がりに期待します。失敗を恐れず安心して自分を表現できる場づくりと、多様な人たちとの関わりで、想像力豊かに未来をつくる人材を育てていきます。(取材・文 松村翔子)

市民ライター 小野恵子 | 学生の創造力と大人の行動力で起こす化学変化

2018年12月、宮城県村田高等学校の生徒が授業の一環で大喜利に挑戦しました。生徒96人が12グループに分かれ、懸命に答えをひねり出します。生徒たちの回答はいくつかビックアップされ、最終的にはお笑いのコントに。初めは不安げだった生徒たちもコントが出来上がる頃には晴れ晴れとした表情を見せました。

この斬新な企画を学校に持ち込み、「君たちならできるよ」「どんな答えても正解!」と生徒たちの背中を押すのが、おぎりーず OGIRI'S です。代表の中田敦夫さんと、宮城教育大学お笑いサークルつくり創の共同プロジェクトです。

2018年8月から、小中高校生を対象にツイッターで大喜利のお題を出題。回答を集めるという企画を仕掛けたことが始まりでした。

普段、放課後学童保育で働く中田さんは、子どもたちの独創的な発想に驚かされる一方で、自己評価の低さが気がかりでした。「もっと自信をつけてほしい」。思いついた方法がお笑いの創作でした。

活動はまだまだ始まったばかり。試行錯誤の繰り返しです。今後は子どもたちの作ったコント台本で動画を作りネットで世界に発信する予定です。

自分の発想が多くの人に認められることで、子どもたちに自信が芽生え、笑顔を生むのでしょ。



▲授業では創のメンバーも大喜利に挑む高校生たちの創造力を引き出しました。

■連絡先
OGIRI'S 中田敦夫
TEL 080-5507-8124(連絡時間11:00~18:00)
Mail atsuonakata0921@gmail.com
Twitter https://twitter.com/atsuonakata

遺贈寄付ハンドブック

お立ち本
発行:特定非営利活動法人 日本ファンドレイジング協会
編集:遺贈寄付推進会議

個人の財産を法定相続人以外の人や法人へ譲渡することを「遺贈」といい、「遺言による寄付」「相続財産の寄付」「信託による寄付」を総称して「遺贈寄付」と呼びます。多くの高齢者がこの遺贈寄付に関心を寄せる中、実現した事例は多くありません。本書では、まだまだ知られていない遺贈寄付について内容や課題がわかりやすい言葉で説明されています。遺贈寄付を受けるNPOだけでなく、遺贈寄付をしようと考えている個人の方も必読の一冊です。



大学生ボランティア募集中! 認定NPO法人Switch

石巻・仙台の2カ所にて、若者支援のサポーターとして一緒に活動するインターン型大学生ボランティア「ユースチャレンジ2期生」を募集しています。地域復興をテーマに、被災地の現状やサポーターとしてのスキルを学ぶことができます。石巻では高校生カフェの補助スタッフ、仙台では子ども支援アートのアトリエスタッフなどの活動があります。

問い合わせ TEL 022-762-5851

Mail info@npo-switch.org(小関・小野寺)



Enjoy Tag! 仙台スポーツ鬼ごっこ愛好会

スポーツ鬼ごっこは、2チームに分かれて、制限時間内に互いの陣地の端にある「宝」を取り点数を競う競技です。社会人の朝活、PTA行事など様々な交流の場で活用されています。ライセンスを持つメンバーが2012年に仙台で活動を始め、コアメンバー5人と「スポーツ鬼ごっこ」の楽しさを伝えています。運動経験や年齢、性別、言語、障害を越えて楽しめるのが魅力です。
問い合わせ sendai-oni@mineo.jp

